

河川環境

「川が川をつくる」のを手伝って「川づくり」を一緒に考え、川を取り組めます。

モニタリング

現状の課題

- 冠水頻度の減少により、河道の干陸化が進んでいます。
- その結果、ヨシなど湿地性植物が衰退。他方、ツル性植物や樹木が繁茂し、河川特有の植生が減少しています。
- 瀬や淵、水陸移行帯、湿地帯、ワンドやたまりが減少し、生物の生息・生育環境が悪化。生物にとって住みにくい川になっています。

モニタリングの結果を評価し、フィードバックを行います

具体的な整備内容

実施項目

河川環境のモニタリングを実施するとともに、得られた基礎資料をもとに生物及び生物の生息・生育環境に関する評価を行い、関係機関と連携してその情報を一元化し、結果を公表します。


- 住民との協働で整備した下河原地区ワンドのモニタリングを継続実施します。
- これまで実施してきた「多自然型川づくり」の評価を実施します。

環境 1 流域全体


タイムスケジュール 実 施

H15 H17 H19 H21 H23 H25

■下河原地区のワンドでのワークショップの様子



■下河原地区のワンドでのワークショップの様子



河川形状

現状の課題

これまでの河川整備によって構築された堤防、高水敷、単純な形状の低水路等により、河川形状が不連続になっています。

- 川の横断方向(水域～高水敷・堤防～河川区域外)の連続性が分断されています。
- 縦断方向(山～湖・川～海)は、ダム・堰等の河川横断工作物によって分断されています。



河川形状の連続性の修復を目指します

具体的な整備内容

検討項目

横断方向の河川形状の修復

試験施工及びモニタリング結果を踏まえた形状変更の検討を行います。

環境 14 下河原地区

タイムスケジュール 検 試 員 討 行 会

H15 H17 H19 H21 H23 H25



平成14年10月

環境 15 下加茂地区

タイムスケジュール 検 試 員 討 行 会

H15 H17 H19 H21 H23 H25

縦断方向の河川形状の修復

- 現状の堰・落差工等において、魚類等の遡上・降下に配慮した構造を検討します。
なお、小規模な改築で、改良が可能な箇所は早期に実施し、新築や大規模な改築に当たっては、その構造を検討します。
- 堰・落差工
- 環境 23 大井井堰 環境 23 三ヶ井井堰 環境 23 高木井堰
- 環境 23 久代北台井堰 環境 23 上津島床固 環境 23 池田床固
- タイムスケジュール 検 試 員 討 行 会

H15 H17 H19 H21 H23 H25

- 支川合流部
- 環境 25 空港川合流部 環境 25 余野川合流部
- タイムスケジュール 検 試 員 討 行 会

H15 H17 H19 H21 H23 H25

- 魚道設置事例


施工前 施工後

半すり鉢状の緩やかなスロープ状の魚道とし、様々な生態・サイズの魚介類が遡上しやすい設計になっています。(神奈川県/いたち川・柏尾川合流点落差工)

- 既設ダム
- 環境 26 一庫ダム
- タイムスケジュール 検 試 員 討 行 会

H15 H17 H19 H21 H23 H25

委員会設置

水 量

現状の課題

- これまでのダム・堰の操作は、安定的な水供給のために一定の効果をあげてきました。その反面、中小洪水までも貯留したことで、下流河川の水位変動や攪乱を減少させました。
- このためダム下流では、魚類の餌料となる藻類の生育を妨げるなど、生態系に影響を与えているところがあります。

自然流況に近い流量が流れるようにします

具体的な整備内容

検討項目

治水・利水への影響を考慮した上で、水位変動や攪乱の増大を図るため、ダムの有効な操作方式、放流量などを検討。試験操作を踏まえて、適正な運用を検討します。

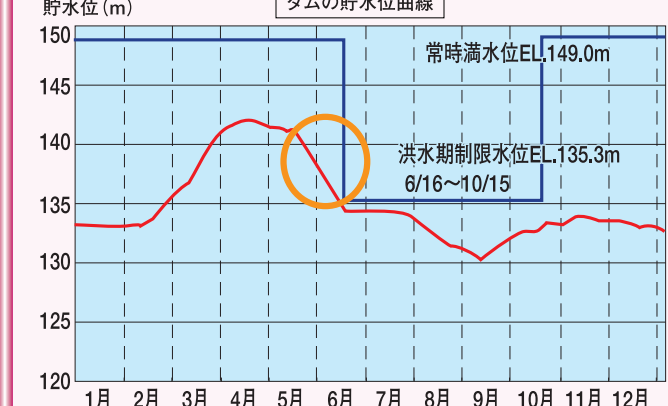
環境 32 一庫ダム

タイムスケジュール 試 行

H15 H17 H19 H21 H23 H25

攪乱機能の増大を図るフラッシュ放流の試験運用の検討

貯水位 (m) ダムの貯水位曲線



常時満水位EL.149.0m
洪水期制限水位EL.135.3m
6/16~10/15

フラッシュ放流により、攪乱を生じさせる検討を行います。

— 平均貯水位
— 制限水位

- 周辺の地下水や伏流水への影響を含めた河川環境上、必要な水量を検討するとともに、確保可能な水量を把握するために必要な諸調査を実施します。

環境 33 流域全体

タイムスケジュール 検 試 員 討 行 会

H15 H17 H19 H21 H23 H25